

# SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・  
地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

**NPO法人 地域福祉サポートちた**

## もくじ

□若者とかがわりを持つということ.....	1P
□金城学院大学生夏合宿.....	2P
□日福大サービスラーニング意見交換会.....	2P
□日福大サービスラーニング中間報告会.....	3P
□生活支援コーディネーターフォローアップ研修.....	3P
□インフォメーション.....	4P

## 若者とかがわりを持つということ

近年の夏は、中高生をはじめ大学生や入庁2年目の行政職員も含め、若者の主体性や社会性を育むことを目的としたインターンシップやサービスラーニングの「地域体験型」をコーディネートする事業が増えている。その一つに、3年目を迎えた知多市若者チャレンジ支援事業「ちた未来塾」がある。将来、積極的にまちづくりに参加できる人材を育成することを目的にこの事業はスタートしている。

今年度は、これまでを振り返り何点か変更した。大きくは8月までに活動を終えることで高校生が参加しやすいようにしたこと。また、ちた未来塾経験者をサポーターとして迎え、塾生と事務局をつなぐコーディネート機能を充実させた。

8月24日の卒塾式では、塾長の吉村輝彦先生（日本福祉大学国際福祉開発学部教授）より塾生へのはなむけの言葉として「未来に向けてチャレンジしていく」とは何か、そして「この体験はおそらく数年後に花開く、きっと」「時間をどのように使うかで未来は決まる」との3つの話を贈った。次に自己の学びをプレゼンテーションした塾生とサポーターのキラリと光る言葉（抜粋）は次の通り。

・びすた〜りの活動をここで留めるのではなく、もっと広めていけば知人が増えていく。自分たちのこの経験や学んだことを広げていきたい。

・プレーパークが子どもの自主性を育み、親の居場所となっていることも素敵なこと。親が子どもの生き方を決めるのは行き過ぎ。私も将来や進路は自分で考えていきたい。

・今後実際にやってみたいことは住みやすい市にするために、私が参加した活動の存在を外国の方に知ってもらい、外国の方のニーズを把握すること。他にも、市内の外国語のサポートなど簡単にできる

所がないか探してみたい。今回で終わるのではなく、継続して活動を見守ってきたい。

・塾ではいろんな世代と関わり、考えも人それぞれ違うことに影響を受けた。フィールド



知多市は外国人比率が約2.3%。その大半が暮らす朝倉団地でのフィールドワーク

ワークで知り得たこともあり勉強になった。来春、離島にボランティア参加しようと思っている。他のいろんな人たちと関わってきたい。

さて、「数年後に花開く」のがちた未来塾の成果だとすると、その意味は「今、未来に向けて、どれだけの人に出会い、何をして、どんな種を蒔いておくのかによって、その価値は後から分かるだろう」と、塾長の言葉は深い。

ところで、次世代育成支援をネット検索すると、1994（平成6年）12月に文部、厚生、労働、建設各省が今後10年間に於ける子育て支援のための基本的方向と施策を盛り込んだエンゼルプランが策定とあり、厚労省のホームページには「今般の次世代育成支援の展開」が続く。エンゼルプランの冒頭、少子化への対応の必要性には「子ども同士のふれあいの減少等により自主性や社会性が育ちにくいといった影響が懸念されている」とある。

卒塾式では、今年度のプログラムの課題を話し合ったところ「もう少し活動期間を延ばしてできる音の幅を広げたい」との嬉しい改善提案があった反面、高校生から20代までの年齢差も彼らにとっては大きく、コミュニケーションを阻む要因だ（次頁へ）

(前頁より) ったとのこと。予め決められたテーマや方向性に沿ったやり方がよかった等々の意見から、若者の自主性や社会性が育ちにくさを改めて痛感した。とはいえ、正解のないことは誰も不安なこと。塾長もまた「主体的に考え行動することに違和感を持つことは成長の証し」と塾生にエールを送った。

この日にインターンシップ最終日が重なった名古屋短期大学現代教養学科1年生4人は卒塾式のみ参加、「参加された皆さんの話を聴くと「若い人」といっても高校生から大学生社会人と幅広い人が参加しているため、感じ方が違う印象を受けました。高校生は「地域を知った」、大学生は「自分の世界（視野）が広がった」、社会人も「自分から興味を持つことが大切」と発表していました。ひとり一人が何らかの形でゴールに向かっていて感じました。(中略) 未来塾だけではなくボランティアは、自分を成長させる、視野を広げる、人の輪ができる一つの手段だと思います。私はその手段を使って成長したいと思うようになりました」と聴講後の感想(抜粋)を寄せた。



10月2日終業後、報告会の企画会議に集う5人のサポーターら

これまで卒塾と報告会の同時開催を見直し、今年度は成果を内観するための卒塾とは別に成果をより多くの人に伝え交流ができるよう、12月1日に報告会を開催する。しかし、先述の通り成果は数年後であるため「見える化は至難の業」ということで、サポーターや塾生に呼び掛けて企画会議を行った。事務局が提案する堅苦しい企画はあっさり没となり、塾生ら当事者として「伝えたいこと」が成果だと再確認することができた。

また、来年度に向けての周知と塾生募集にもつながるよう、市内全中学3年生を対象に報告会への参加を呼びかけるチラシ「みんなのちょっと先輩からのメッセージ」(右図)を作成、関係各課の協力の下、配布できることに感謝。(市野)



これまで卒塾と報告会の同時開催を見直し、今年度は成果を内観するための卒塾とは別に成果をより多くの人に伝え交流ができるよう、12月1日に報告会

## ■金城学院大学生夏合宿

昨年度に続き8月20日から22日の3日間、金城学院大学コミュニティ福祉学科朝倉美江ゼミ生19名が知多地域で夏合宿を行った。

地域を学ぶことを目的に、1日目は地域の居場所運営を行うNPOで体験学習、2日目は常滑市大野町を散策、



8月22日の最終日に多くの親子連れで3日目は場にぎわう知多市民活動センター

創る体験として～手づくりカフェ～Ada-codaで女子大生食堂を開店した。親子連れ等23名が参加し、レクリエーション、食事をしながら交流した。

朝倉先生は「本学卒業生や昨年も参加したという親子からの申し込みもあり、つながりができたのは素敵なこと」と話した。学生は3日間を通して「多世代が集うことで交流と学ぶ機会が生まれる」「現場に出向くことで居場所と地域住民の普段の関りが見えた」「しっかり計画をたててスムーズにできた」と振り返った。(竹内)

## ■日福大サービスラーニング意見交換会

2009年(平成21年)より始まった日本福祉大学サービスラーニング(以下、SL)も10年目を迎え、今年度より地域福祉コースから行政、子ども、医療、人間福祉の4つの専修への対応となり、活動先もNPOだけでなく社協・学校・医療機関など多様な場が受け入れることとなった。

5日間の夏の活動開始前の7月26日午前、知多市民活動センターにてSL担当教員を招き、その意義と目的を再確認を行い、後半は学生への対応について担当教員も交えての情報交換会を開催し、カリキュラムに対する素朴な疑問や成果について活動先9団体12名と3名の担当教員が2グループに分かれて話し合った。

ここで、日本福祉大学社会福祉学部准教授小林洋司先生は、人の話に興味を持つ、相手の経験を尊重するといった大学で経験することができない事に触れること等、NPOにある「本物」に出会わせたい、そして学びの中でリフレクションを丁寧にしていくことがSLの特徴であると話された。活動先団体からは「現場にきた学生を気づく方向へ導くことが大切と考えている」「共に



「失敗や怒られた経験のない学生を一人の人間として受け止めてほしい」と小林先生。

「育っている」との声があった。一方で「学生との意思伝達はどのようにしているのか?」「活動日の基本ルールは?」などの不安事項に対して、教員や他団体より助言を頂きながら、これからはじまる活動へ望む意思確認の時間を共有した。(江端)

育っている」との声があった。一方で「学生との意思伝達はどのようにしているのか?」「活動日の基本ルールは?」などの不安事項に対して、教員や他団体より助言を頂きながら、これからはじまる活動へ望む意思確認の時間を共有した。(江端)

### ■日福大 サービスラーニング中間報告会

10月12日、日本福祉大学美浜キャンパスで、サービスラーニングふりかえり会が開催された。ゼミごとに分かれて、学生が活動先、教員へ向け活動の報告を行った。

山崎紀恵子ゼミの学生4名が5日間で当法人とともに活動した内容は、市内の空き店舗を改修し、学びあいと実践の拠点施設として平成28年にオープンした



事業企画した内容を発表する学生

知多市朝倉町184にある“わ〜くわくラボ”の周知を目的に「こども夏祭り2018」を企画運営した。学生の事後の感想は「100人近くの方が集まってよかった」「子どもも大人も楽しそうで自分たちも元気をもらった」「協力してくれた方々のおかげと感じた」と振り返りながら、メンバー間で労をねぎらった。また「定期イベントの回数を増やす」「日本福祉大学東海キャンパスとの連携」など周知と利用を促すアイデアも語った。

他の活動先の学生の発表もまた「コミュニケーションや企画運営するときの計画性の大切さを学んだ」「職員と利用者の信頼関係が深い」「みんなが集まる場があるとたすけあいの輪が広がる」との報告がなされた。

後期の予定は、活動で学んだことから研究テーマを絞り、取り組んでいく。研究報告会も同大キャンパスにて12月15日(土)13時~15時に開催される。(竹内)

### ■生活支援コーディネーターフォローアップ研修

県内全域の生活支援コーディネーター(以下、SC)129名を対象に、10月19日愛知県社会福祉会館にて情報交換を目的にした研修会が行われた。後半のグループワークではNPO法人ギブアンドテイク春日井代表・春日井市第1層SCの南部哲男氏、日本福祉大学福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科助教の末永和也氏とともにファシリテーターとして参画した。主催は、愛知県医療福祉計画課 地域包括ケア・認知症対策室。

前半は「SCが直面する課題とその解決のヒント ~移動支援サービス開発、地域のキーマン発掘等」をテーマに服部真治氏(医療経済研究機構研究部研究員兼研究総務部次長、さわやか福祉財団 研究アドバイザー、鳥取大学地域学科 特任教員)による講演があった。その内容は、参加するSCの経験年数や地域特性も異なることから、新しい地域支援事業の全体像から新しい包括的支援事業に関する基本的な考え方を解説した。

包括的・継続的ケアマネジメント支援業務は本来、地域包括支援センター(以下、センター)の業務だが、相談対象の高齢者の増加、より複雑化する個別困難ケースの増加によりセンター業務量が過大となると同時に職員の力量不足、関係機関との連携が十分でないことや職員数の不足といった背景があり、これらの課題解決に消費税の増税分を財源とした社会保障充実分を包括的支援事業の4事業(生活支援体制整備事業、認知症総合支援事業、在宅医療・介護連携推進事業、地域ケア会議推進事業)に充実させ、センターの機能強化を目指している。よく聞くとところの「協議体」と「地域ケア会議」の関係性について、求められている機能や役割の違いを理解したうえで、三菱UFJリサーチアンドコンサルティングの提供資料より、社会保障充実分の使い方の例として充実していない自治体パターンに対する厳しい指摘があった。また、各市町の事例を用いながら、SCと協議体の確認や総合事業における補助の考え方を共有した。メインテーマである移動・外出支援は、道路運送法における許可又は登録を要しない運送の態様について国土交通省の考え方が変化する中で、今年3月末に見直された内容を踏まえて総合事業の活用を共有した。(市野)

### ★新会員紹介:.\*.☆..\*.☆.\*.\*.\*.☆..\*

- 【準/団体】 一般社団法人oneness 様
- 【準/個人】 森戸力 様
- 【準/個人】 中井 将嗣 様

★..\*.☆.\*.\*.☆..\*.☆.\*.\*.☆..\*. (2018年9月末現在)

# サポちた インフォメーション

会員さんなどから集まる情報をお知らせします。お気軽に情報をお寄せ下さい。

## ■秋いろいろ作品展

ゆいの会で活動している陶芸、パッチワーク、絵てがみの会員による作品を展示。菓子付コーヒー(200円)の提供あり。  
〈日時〉10月17日(水)～19日(金) 10:00～16:00  
〈会場/問合せ〉(N)ゆいの会 ☎0562-32-5906

## ■地域の縁側 グリーン・ラソ 1周年記念イベント

【前夜祭フォーク酒場 12月7日(金) 18:30～20:30】  
〈会場〉グリーン・ラソ ※楽器の持ち込み大歓迎！

【1周年ありがとうコンサート 12月8日(土) 13:30～16:30】  
〈会場〉東浦町緒川コミュニケーションセンター ホール  
〈出演〉和太鼓 巴、八朔、ミュージックベルラソ、歌声喫茶等  
【夜カフェ1周年記念特別メニュー 12月8日(土) 17:00～20:00】  
〈会場〉グリーン・ラソ  
〈申込/問合せ〉(N)絆 ☎0562-83-7563

## ■YOCHI-FIT 秋の5回コース

心とからだを整えるフィットネス 食べて動こう!!冬に向けて代謝UP 対象はどなたでも(年齢制限なし)  
〈日程〉10月30日～11月27日 毎週火曜日 全5回  
〈時間〉10:00～11:15  
〈会場〉武豊町総合体育館 視聴覚室  
〈その他〉受付10/10(水)～ 受講料7,500円/5回を添えて申し込み ※先着20名様定員になり次第締切  
〈申込/問合せ〉(N)ゆめフルたけとよスポーツクラブ  
☎0569-84-1100(火～土曜まで 9:00～17:00)

## ■知多半島ろうスクール (定員30名)

〈日程〉10月11日～11月22日 毎週木曜日 全7回  
〈時間〉13:00～16:30 ※11/1のみ9:30スタート  
〈会場〉アイプラザ半田 ※11/22のみ雁宿ホール  
〈内容〉相続、墓じまい等を仲間と一緒に、自分らしい暮らしを守るために知っておくべき法律の知識を学ぶ  
〈参加費〉入学金2,000円 各回1,000円  
〈申込/問合せ〉(N)知多地域成年後見センター  
☎0562-39-2663 メール chi ta-koken@ma.medi.as.ne.jp

## ■発達支援サポート講座 (定員20名)

〈日時〉10月30日(火) 10:00～12:00  
〈会場〉クラシティ半田 ミーティングルームB  
〈内容〉発達支援に興味のある方を対象に発達障がいの基礎、障がい特性の模擬体験から支援方法について講義＋ワークの講座。メール申込の場合①名前②連絡先を明記。  
〈参加費〉1,000円  
〈申込/問合せ〉(N)Paka Paka  
☎ 0569-77-0492 メール office@paka-paka.net

## ■第21回行動援護従業者養成研修講座

〈日程〉11月11日、17日、28日、12月6日  
〈会場〉ネットワーク大府 研修室  
〈申込/問合せ〉(N)ネットワーク大府(大府市森岡町1-30)  
☎ 0562-44-3735 事務局:豊田

## ■人財・志事ツクール

### 【vol.6】雲南市発！地域自主組織の取組

〈講師〉板持周治(島根県雲南市政策企画部地域振興課長)  
〈日時〉11月3日(土) 14:00～16:00 (13:30開場)  
〈会場〉メディアス体育館ちた(市民体育館)2階 大会議室  
〈参加費〉500円 ※定員100名先着申込順

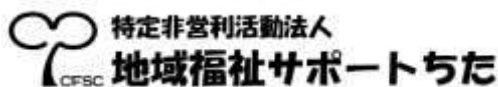
### 【vol.7】持続可能な地域づくりセミナー

〈①②講師〉長浜洋二(モジョコンサルティング合同会社代表)  
〈参加費〉①～③各回1,000円

①入門編～これから起業を考える人～ ※定員30名  
〈日時〉11月17日(土) 13:00～17:00 (12:30開場)  
〈会場〉知多市市民活動センター2階 会議室

②実践編～組織や事業を見直したい人～b※定員40名  
〈日時〉12月8日(土) 13:00～17:00 (12:30開場)  
〈会場〉知多市勤労文化会館2階 研修室1

③現場編～先輩起業家に会いたい人～ ※定員10名  
〈日時〉12月22日(土) 10:00～15:30 (9:45集合)  
〈集合〉知多市市民活動センター1階  
〈申込/問合せ〉ちた人財・志事ツクール推進ネットワーク事務局  
メール chi ta.tsuchool.net@gmail.com



〒478-0047 愛知県知多市緑町12-1  
知多市市民活動センター1階  
TEL 0562-33-1631 FAX 0562-33-1743  
メール spchita@ams.odn.ne.jp



◆地域福祉サポートちた  
HP: cfsc.sunnyday.jp/  
FB: facebook.com/sapochita/

◆手づくりカフェAda-coda  
HP: cfsc.sunnyday.jp/01-adacoda/  
FB: facebook.com/Adacoda.cafe/